

2011年度 第3回特別講義 レポート

日時	2011年7月7日(木) 13:30～16:00
会場	箱根ホテル小涌園
テーマ	「チームビルディング ～プロジェクトを成功させるチーム作りの体験」
講師名・所属	奥村 有紀子氏、林 眞弓氏、堀田 文明氏(以上、(有)デバッグ工学研究所)、栗田 太郎氏((株)フェリカネットワークス)
司会	第5分科会 テスト 主査 奥村 有紀子氏((有)デバッグ工学研究所)
アジェンダ	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト型チームの特徴とチームの形成 ・チームビルディングのモデルと実践に向けて ・チームビルディング演習
アブストラクト	現代は製品価値達成に対し、チームの各メンバーが自主的に行動およびフォローしながら仕事を進める、「プロジェクト型チーム」の存在が鍵を握るようになってきた。そこでこの講義ではプロジェクト型チームのチームビルディングの重要性について焦点を当てて解説する。また、演習を通してチームビルディングを実体験する。

<講義の要約>

◆チームビルディングの必要性

現代のソフトウェア開発は定型的なマニュアルのない、知的な活動を必要とするプロジェクト型の仕事が増えてきた。また、一緒に仕事をしていくメンバーも様々な業種から流動的に集まるようになり、チームの立上げの早さが仕事の生産性に大きく影響するようになってきた。

プロジェクト型の仕事で必要なのは、自立したメンバー同士によるチームワークである。正解が不明確な作業上の問題に対し、メンバー同士で知恵を出し合い解決して行くことで、仕事を達成出来るようになる。

ただしチームワークは団体スポーツ同様、チーム訓練によって成長していくもので、チームビルディングの取組みがプロジェクト成功の鍵を握っている。チームを作る練習が必要であり、メンバー間の信頼関係を作ることが重要である。

◆チームの階層構造

チーム力を発揮するには、基盤として、まず自己紹介等を通じた「メンバー間の関係性」の成立が必要になる。次に、メンバー間でのコミュニケーションを通じた「ヒューマンコミュニケーション」

の成立が必要になる。最後に、プロジェクト成功に向けたメンバー同士の積極的な取組みを通じて「詳細なテクニカルコミュニケーション」の成立が可能になる。

◆チームビルディング演習:スパゲティタワーの作成

チームビルディングを体験するために、スパゲティとメラミンスポンジを使用したタワー作成の演習が実施された。

【作業手順】

- ・チームメンバー同士による自己紹介
- ・チーム名、タワー名の決定
- ・建材(スパゲティとメラミンスポンジ)の特性調査
- ・タワーのスケッチ作成と工法のアイデア出し
- ・タワー作成の作業分担およびタワー作成の実施
- ・チームメンバー同士による作業の振り返り(KPT)

各作業においてはメンバー同士の知恵の出し合いが重要である。より高く安定したタワーを作成するには、作成過程で発生した問題の解決に向けて常時意見を交換しながら自主的に活動する必要があった。

◆職場でのチームビルディングの実践

職場のチームにおいて、合意が成立しにくい等の問題があるなら、まとまった時間を設けてタワー作りを実践するのもよいだろう。メンバー同士がそれぞれの考えや気持ちについて話せる関係が大事である。

まず自分自身がチームビルディング力を養い、次に自分が所属するチームを成功するチームへと成長させて、更にその流れを職場全体へと広げていくことで、より良い職場へと変化していく。

◆感想

チームビルディング演習では、私の所属したチームが最も高いタワーを作成できた。

その理由を考えてみると、タワーを分割して作成することで全員が無駄なく作業できたこと、軽量かつ強靱な工法を提案できたこと、バランス調整など即時の判断が必要な作業に対して各自が自律的に対応できたことなどが挙げられた。また振り返りとして、タワーの構造上の改善点や、積極性が若干不足してアイデアを伝えきれなかった点などが挙げられた。

今回の演習ではメンバー各自が相手の意見を尊重して更に洗練させて行った点に、チームワークの可能性を感じる事が出来た。また自己紹介の方法を工夫するなどして、メンバー同士のコミュニケーションを早期に活性化させる必要性を感じた。

スパゲティタワーの作成を通じたチームビルディング演習では、知恵の出し合いや積極的な参加など、チームビルディングの効果と重要性を実感出来た演習だった。また演習は日用品で実施可能なので、是非社内でも実践する機会を設けていきたい。

